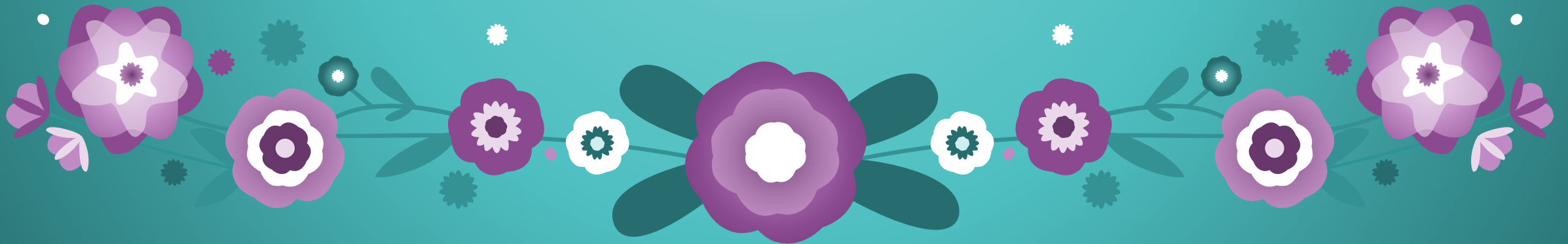


# 日本の結婚は今後どうあるべきか。

～女性にとって幸せな結婚とは～

6年 A組 4番 小島 理江





Q.

夫婦間の家事育児時間格差の是正  
選択的夫婦別氏制度の導入  
同性婚の採用は  
行われるべきか。

A. YES.



# I. 夫婦間の家事育児時間格差の是正(育児)

現状:日本の妻の育児時間は、北欧に比べて1時間も長い。

しかし…

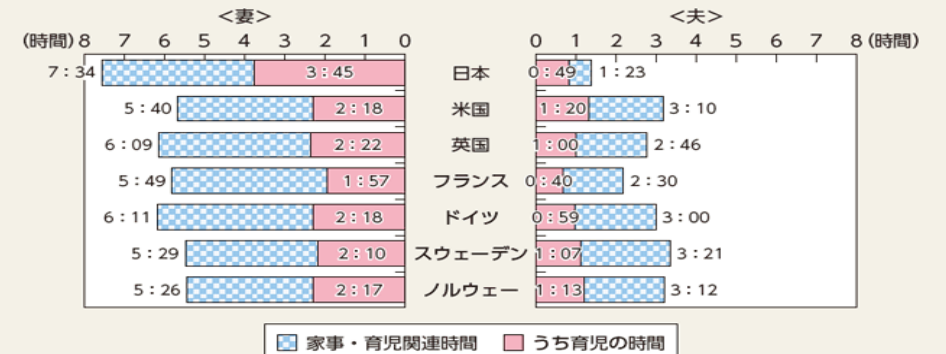
「育児に関して今以上に参加したいか否か」という質問に対して『参加したい』と答える男性は78%にも上った。

78%

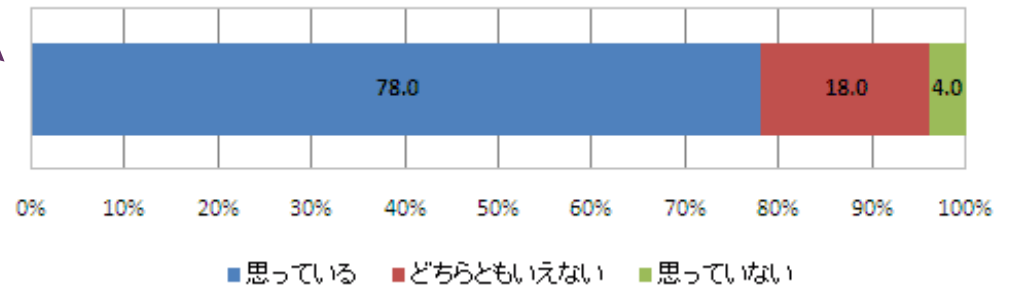
つまり、

育児時間格差の問題は当事者のみの問題ではない。

I-3-8図 6歳未満の子供を持つ夫婦の家事・育児関連時間(1日当たり, 国際比較)



(備考) 1. 総務省「社会生活基本調査」(平成28年), Bureau of Labor Statistics of the U.S. "American Time Use Survey"(2016) 及びEurostat "How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men" (2004) より作成。  
2. 日本の値は、「夫婦と子供の世帯」に限定した夫と妻の1日当たりの「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の合計時間(週全体平均)。



さらに、

ユニセフによる「世界の子育て支援政策による報告書」

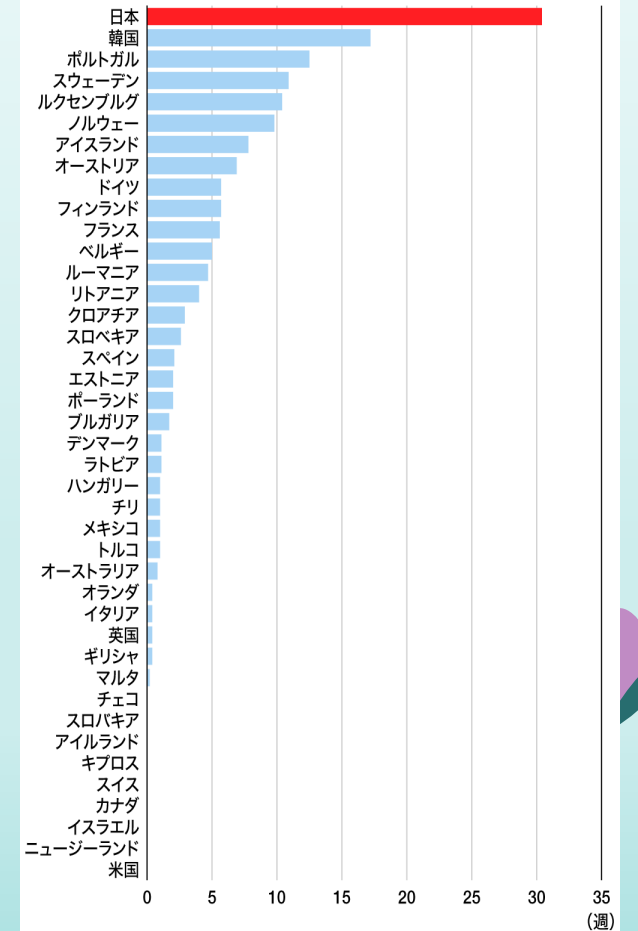
日本は育児休業政策で**1位**

ユニセフは日本を「父親に6カ月以上の（全額支給換算）有給育児休業期間を設けた制度を整備している**唯一の国**」と紹介した。

よって、国の制度の問題でもない。

育児休業政策とは、取得可能な産休・育児休業期間に、賃金と比べた給付金額の割合を加味し、賃金全額が支給される日数に換算した結果を比較したランキングで、日本の男性は30.4週相当と算出された。

父親が取得可能な有給育児休業期間



(2019年:ユニセフ報告書)

nippon.com

なにが男性の育児参加率の低さの原因なのか。

## I. 育児休業取得率の低さ

厚生労働省が行った平成30年度雇用均等基本調査によると、平成30年度の育児休業取得率は女性が82.2%、男性が6.16%という結果。(女性は男性の約13倍)

背景

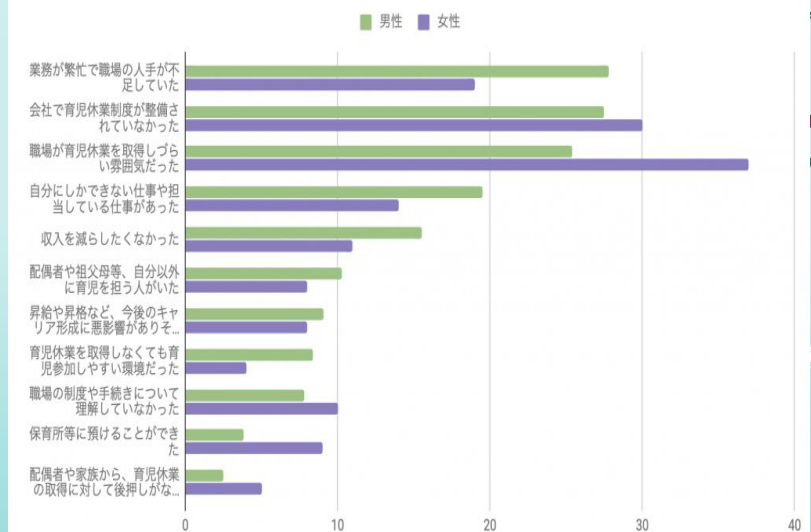
## II. 企業側の育児に対する意識の低さ

厚生労働省によると、育児休業を取得しない理由として

- 代替要員がない
  - 職場が育児休業を取得しづらい雰囲気だった
  - キャリア形成に影響が出ると思った
- というものが挙げられた。

仕事と育児の両立に関する実態把握のための調査研究事業報告書

育休を取得しなかった理由



# 改善案

～どのようにして育児休業取得率を上げるか～

男性育児休暇取得率100%の「日本生命」では以下のような取り組みを行っている。

例えば、営業部長が育児休暇を取得した場合周辺の営業部長に交代で来てもらい朝礼や業務を担ってもらう。これによって、いつもとは違った視点や、刺激を社員に与えることができる。

また、支社挙げての前倒し運営や、業務シェアを広げることによって帰宅時間を早め、育児に参加しやすい環境を整えている。

前倒し運営

代替要員を周辺の支社  
から交代で確保する

業務シェア

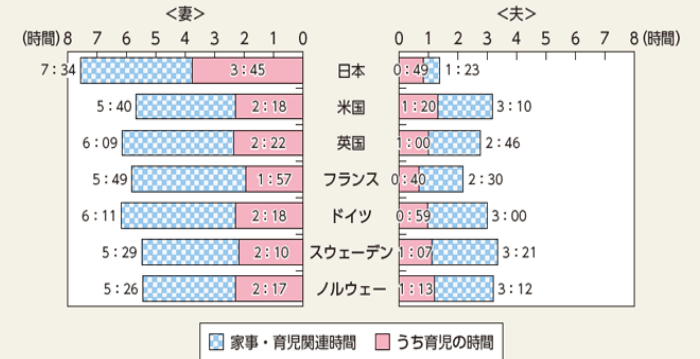
このような対応を行うことによって育児休業取得率の向上が期待できるのではないだろうか。

# I. 夫婦間の家事育児時間格差の是正(家事)

現状：日本の妻の家事時間は、北欧に比べて約2時間も長い。

さらに、「夫は働いて、妻は家を守る」という性別役割観を持っている男性が日本は57.7%、スウェーデンは6.4%と約50%もの差が生じている。

I-3-8図 6歳未満の子供を持つ夫婦の家事・育児関連時間（1日当たり、国際比較）

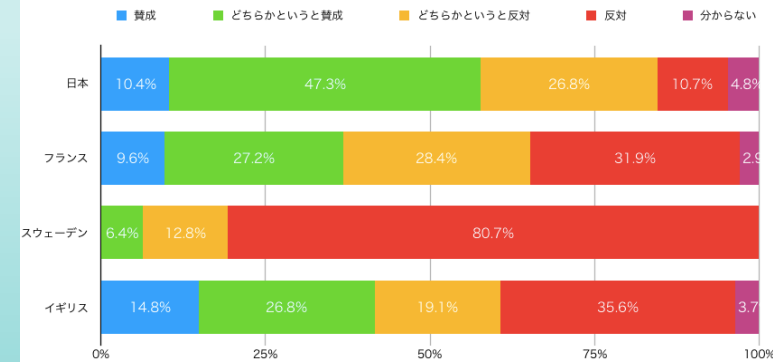


(備考) 1. 総務省「社会生活基本調査」(平成28年)、Bureau of Labor Statistics of the U.S. "American Time Use Survey"(2016) 及びEurostat "How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men" (2004) より作成。  
2. 日本の値は、「夫婦と子供の世帯」に限定した夫と妻の1日当たりの「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の合計時間(週全体平均)。

「夫は働いて、妻は家を守る」という考え方をどう思うか

	賛成	どちらかという 賛成	どちらかという 反対	反対	分からない
日本	10.4%	47.3%	26.8%	10.7%	4.8%
フランス	9.6%	27.2%	28.4%	31.9%	2.9%
スウェーデン	0%	6.4%	12.8%	80.7%	0%
イギリス	14.8%	26.8%	19.1%	35.6%	3.7%

※ 2015年調査のみ採録。該当人数：日本(336人)、フランス(342人)、スウェーデン(358人)、イギリス(351人)



# 改善案

～夫の家事参加率をあげるために～

夫婦間で家事分担を行う



夫の家事に対する当事者意識  
が  
芽生える



## Ⅱ. 選択的夫婦別氏制度の導入

現状：

民法750条

「夫婦は、婚姻の際に定めるところに従い、夫又は妻の氏を称する。」

夫婦同姓を義務付けられている。

しかし、

この制度は人間の功績などを表す最も基本的なアイデンティティである氏名を失う制度である。

例えば…

# 選択的夫婦別氏制度の導入

## 【参議院の制度に対する反対意見】

I. 夫婦同姓制度は、絆の深い一体感ある夫婦関係、家族関係を築くことができる。

→一体感とは。なぜ同姓だと一体感が生まれるのか

II. けじめのないいい加減な結婚、離婚が増えて子どもが悲しい思いをする。

→内閣府によって行われる「結婚新生活支援事業」の方が安易な気持ちでの結婚が増えるのではないか。いい加減とは。

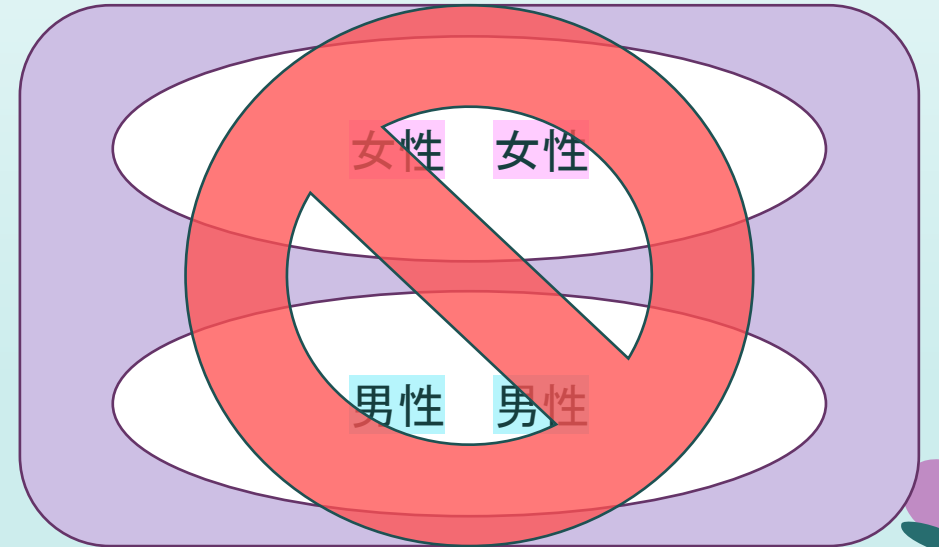
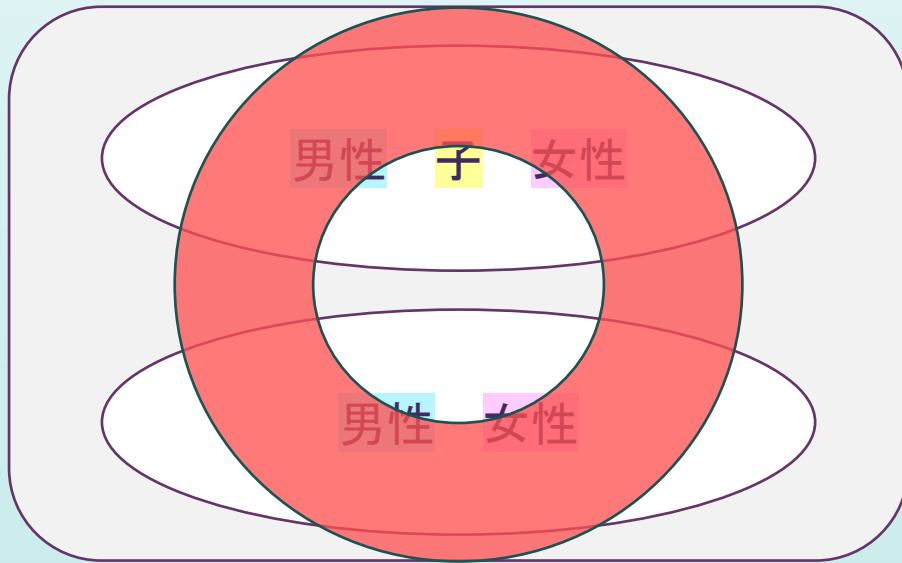
III. 選択的夫婦別氏制度を導入することにより、個人主義的な思想を持つ者を社会や政府が公認したようなことになる

→選択的夫婦別氏制度を支持する人間を個人主義的な思想を持っていると規定した要因はなにか。

よって、選択的夫婦別氏制度の導入は行うべきである。

# Ⅲ. 同性婚の採用

現状：同性同士の結婚は認められていない。



同性婚の不寛容は憲法によって保障されている「法の下での平等」に反するのではないかと考えたため、同性婚の採用を支持する。

# 課題

## 〈個人的な課題〉

- ◆ 「選択的夫婦別姓制度」「同性婚」の導入に関しては、まだまだ調べが足りない。
- ◆ 「夫婦間の家事育児時間格差」に関しては、他国との比較を行う。(なぜフランスの育児時間は短いのか、他国の育児に対する企業の対応など)
- ◆ 男性にとって幸せな結婚についても調べる。

## 〈結婚における課題〉

- ◆ 日本生命の育児休暇取得率を上げる対策をどのように他の企業に広めていくか。
- ◆ 夫婦間での家事の分担をどのようによびかけるか。

# 参考文献

- [http://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/h30/gaiyou/html/honpen/b1\\_s03.html](http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h30/gaiyou/html/honpen/b1_s03.html)
- <https://www.asmarq.co.jp/data/ex2102/>
- [https://www.unicef-irc.org/publications/pdf/Family-Friendly-Policies-Research\\_UNICEF\\_%202019.pdf](https://www.unicef-irc.org/publications/pdf/Family-Friendly-Policies-Research_UNICEF_%202019.pdf)
- <https://www.mhlw.go.jp/content/11911000/000515057.pdf>
- <https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2019/06/diversity190625.pdf>
- <https://news.livedoor.com/article/detail/16851906/>
- <https://sourire-heart.com/9854/>
- <http://www.moj.go.jp/MINJI/minji36-02.html>
- <https://www.sangiin.go.jp/japanese/joho1/kousei/seigan/173/yousi/yo1730602.htm>
- <https://news.yahoo.co.jp/byline/fujitatakanori/20200921-00199290/>